



2014年 スポーツ科学学部 第5問

5 2次関数 $y = x^2 - 1$ のグラフ上の点 $(1, 0)$ における接線を l とする。直線 l と点 $(1, 0)$ で接する円 C の方程式は、実数 t を用いて

$$(x + \boxed{\text{ヌ}}t + \boxed{\text{ネ}})^2 + (y - t)^2 = \boxed{\text{ノ}}t^2$$

と表される。円 C と放物線 $y = x^2 - 1$ の共有点の個数が2個となる t は小さい順に $\frac{\boxed{\text{ハ}}}{\boxed{\text{ヒ}}}$ と $\frac{\boxed{\text{フ}}}{\boxed{\text{ヘ}}}$ である。